

立命電友会

伝統産業に携って

甘春堂代表取締役

木ノ下 善正
(昭和四十八年卒)



私も昨年に還暦を迎え干支を一巡し、新たな人生を歩み始めようとしていきます。

生家が和菓子屋ということもあり、小さなときから『お前は何代も続いた業(なりわい)を続けるのだぞ』と云われながら子供時代を送りました。

朝起きれば、職人さんが和菓子作りで一生涯命精を出している姿を見てまいりました。

小・中学校時代には、父から和菓子の作り方を教えられ、配達等

を強制的にさせられていたこともあり、自然と家業を覚えることが出来ましたが。(今となつては有難い限りですが……)
そんな父は、私が家業を継ぐかを心配して、当初、「菓子屋には学歴は必要あらへんから、大学なんて行かんでよろしい」と言っておりました。
しかし、その当時、私が無線や音響に大変興味があり夢中になっていたことと、父もそんなに好きならなんとか大学へ行かせてやりたいと思ってくれたのでしよう、一応、受験だけはさせてくれました。
小学生の頃、『子供の科学』という雑誌に興味を持ち、子供ながらにとんでもない夢を追い求めていたことを思い出します。又、その頃流行っていたラジコンやプラモデル等を組み立てては遊んでおりました。

目次

- P1 …… 巻頭言
- P2・P3 …… 退職のご挨拶
- P3 …… 卒業生から
- P5 …… 関東立電会
- P6 …… 同窓会便り
- P7 …… 就職状況
- P8 …… 会長活動報告
学系便り

特に、『なぜなぜ理科』という題名の本を未だに忘れません。

読めば読むほど子供に自然の夢や興味を与えてくれる本でした。その中の『かものはし』を読んだ時「この世の中は不思議なものがあり、不思議なことが起こっているのだ」と印象に残っています。このように、理科・自然科学とどんな興味もわき、いつしか理科系の人間になってしまいました。

父の期待を裏切つて、立派(?)に大学まで行き電気工学科へ進んだものの、卒業したら家業の和菓子屋を継ぐと決心していたので、授業は趣味半分、友人と遊び、テレビ修理のアルバイトし、気楽で楽しい学生時代を送りました。

そして、最後の卒業研究で選んだゼミがどういう訳か厳しきで有名な小堀先生でした。

小堀先生との思い出は、就職のことを聞かれた時に「家業の和菓子屋をしますので就職の推薦は要りません」と云うと先生は「電気饅頭でも作るのか」と冗談を言われたことです。

たぶん、小堀先生からすれば、「こんなやつに神聖なる電子工学を教えられるか」とでも思われていたのでしょう。ですが、気楽にいろいろのことを教えていただいた

た記憶がございます。

そんな『理科系和菓子屋』が全く役に立たないかというところはもうありません。

それまでは勘に頼ったり、経験のみで作っていたものを、より理にかなった製造方法や論理的な味付けをすることができるようになりました。

そのためか、最近では食品の製造責任者にも理科系が増えてきています。

ただ、中身やパッケージデザインなどの雰囲気作りは、文系の人にはかなわず、和菓子業界でもそのような傾向です。

また、先端工学と伝統産業はかけ離れてはいますが、全く関係がないかというところでもありません。

どちらに携っても消費者に受け入れられる『売れる商品』の価値は同じであると思うのです。

高度成長期までは、美味しい商品、高性能・高機能な商品、つまり秀でている商品こそがより価値があるという、この一点で進んできました。

しかしながら、成熟した社会の消費者には、このような機能的価値はすでに当たり前となり、それプラス何か価値がないと、『売れる商品』ではなくなってきました。

私には『感性的価値』というものが必要になってきているように思われます。

つまり高性能・高機能な商品であると共に、そのものを使う人間がいかに心地よく使える商品かの方が、高い価値を生み出し、『売れる商品』となるとということです。

ここである『心地よく使える』ということが共通のキーワードになります。

例えば「エコ」というのがこれに当たるのではないかと思います。エコは経済的で地球にも優しい、その良いことに自分が携われて気分がいいな」という、定量的・定性的に測れないような、感性的部分が隠れた価値ではないかと思うわけです。

京菓子の世界も同じように、これまで、より美味しい物、より美的で文化的な物といったものが求められてきましたが、今はそれにプラス、よりカワイイ物、より楽しい物、よりウキウキするものといった、感性的で測れないところに価値を見出す傾向にあります。

伝統産業の人間が当時花形産業の電気関係の学友と社会では会わないだろうと思つていて、不思議なもので色々との会合等でお会いすることが年々ともに多くなってきました。

そこでゼミの先輩や後輩と出会い、当時の衣笠キャンパスの事や先生方の思い出に話が弾みます。

そんな時立命館大学で学生生活を過ごしてよかったなあと思つています。その様な事を思いながら、又近頃は息子も仕事を手伝いだした事もあり、少し仕事から離れつつある毎日です。

家紋に藤の花が付いているからか、最近藤の花を咲かせて近辺を歩く人に喜んでもらいたいと思ひ、せつせと世話をしています。

これからは少しでも心豊かな日々を過ごせるよう生きて行きたいと思つております。

退職のご挨拶

左脳と右脳

浮田 宏生

一九九五年四月に企業からこちらの大学に着任し一六年が過ぎました。この間、立命館大学、理工学部、電子システム系の皆様には、本当によくしていただきお世話になりました。感謝しております。

「ほぐしつゝ、ほぐしつゝ、植う苗木かな」

なお、私の経歴、研究生活、ゼミ活動等は、退職記念講演や記念パーティでお話させていただきましたので、この紙面では最近の思いを綴ってみます。

昨年の夏くらいから、学系人事や卒業研究紹介などの会議に欠席するようになりました。夏休みに個室の書架を整理し重要資料を自宅に運んでみましたら、意外に少なく、本棚一連に納まりました。初秋の夕暮れどき書齋でゆっくりしていたところ

「我が生は本棚ひとつ虫時雨」という句が出来ました。企業・大学と四〇年間に渡って引継いできた書類をかたづけしてみると、我が人生の記録も本棚一連に納まったと言いつてです。あつけないものだなーと感じました。人生、あまり仰々しく考えなくてもよいのかもしれませんね。

また、教育では光応用の分野を担当しましたが、知識を体系化しやすいように教科書を書くことも目標にしました。そしてこのような体験から、本学での教育・研究

さてみなさまは、左脳、右脳という言葉をお聞きになったことがあるかと思えます。振り返ってみますと、これまでの人生では主張ばかりしてきたように思います。研究をするためには、主張して、人や資金を獲得しないとやってゆけないという現実がありました。そのようなとき使うのは左脳で、何よりも論理が大切でした。このことが、社会や職場や家族にぎすぎすした環境をもたらす遠因になったように思います。

還暦を迎え、定年を迎え、誰しも同じだと思えますが、残りの人生を考えるようになりました。そして、これからは社会に迷惑をかけるないようになるべく自分というものを消していこうと考えるようになりました。そんなとき、ふとしたことから俳句に親しむようになりまし。勉強していくうちに気づいたのですが、俳句では作品に主張や意味を込めない、もっとも大事なことは言わないということでした。これまでの論理の世界では考えられないことです。俳句では、詠む人にそれを気づかせる余韻を感じさせることが何よりも重要なようです。そのためには右脳を使わなければなりません。たとえば、「未来を信じ、未来に

生きる」。みなさん御存じのように川先生のお言葉です。私と同じようにこの言葉に励まされた方も多いと思います。でもこれは左脳で作ったフレーズだと思えます。なぜかという、わずかですが前半と後半に理が感じられるからです。一方、「ハマナスや今も沖には未来あり」中村草田男、「炎天の遠き帆やわが心の帆」山口誓子の句はどうでしょうか。これらの句は右脳で作られていると思えます。

詠む人に自然と希望がにじみでて、未来を信じさせ、青春を感じさせます。もちろんこれまでの左脳による論理生活を否定するものではありませんが、これからは、右脳の働きを加味し、生物としての自分にパランスを取りたいと思っています。そしてできることなら、循環する時空（自然）の流れの中に自分自身を解消して生きてゆけたらいいなど考えています。

退職にあたって

名 西 愷 之

一九九四年四月BK C開設とともに立命館大学に着任して以来、はや一七年、定年退職のときを迎えることになった。着任する直前まで、N T Tの特別研究室で、これ以上望めないような優秀な仲間と、毎年一億円を超える研究予算をいただき、自由な研究を進めてきた私は、研究者としての夢は捨て、若い学生の教育と語らい、休日には京都の寺社仏閣と名園の散策を楽しむに着任した。新キャンパスの開設間もない大

学では、すぐに新学科（光工学科）設立の準備も始まり、二年目には副学科長も拝命することになり、二か月で七〇回の会議に追い回されたことを覚えている。着任直後から、講義と学生実験を五科目ほど担当することになり、研究どころの状況ではなく、二三年間続けてきた化合物半導体の研究を継続するなど、かなわぬ夢と考えていた。ところが、着任間もない私の講義を聞いて研究室に集まってくれ

た学生諸君は、みな勉学と研究の意欲に燃えていた。新学科の設立も文部科学省に認められ、学科設置予算で最低限の実験装置も購入することが可能となった。N.T.Tからは自ら設計・制作したECR-MBE装置を移設した。また国家プロジェクトが終了した光技術からは、二億円もするMBE装置を公開入札により一〇一〇万円で取得した。研究意欲に燃える学生と手作業でこれらの装置を一つ一つ立ち上げ、安全な材料よりなる窒化物半導体の結晶成長と省エネルギー性に優れた光電子デバイスの研究を開始することとなった。

折しも、我が国の経済は長い不況のどん底にあり、国を代表するような大電機メーカーも、基礎研究・材料研究からシステム研究まですべてを自社内で行うことはあきらめなければならぬ状況に追い込まれていた。

当時我が国ではほとんど注目されていなかった窒化物半導体の高周波、高出力電子デバイス応用の高い可能性を経済産業省に提案し、国立研究所、民間企業と協力しながら、地域コンソーシアム（三年三億円）、NEDO国家プロジェクト（五年、一八億円）をプロジェクトリーダーとして推進する大きな責任のある仕事を任せられた。メ

ンバー一丸となった必死の頑張りにより、一時は無理かとも思えた目標値を悉くクリアし、世界最高性能を次々と実現した。この成果は次世代の携帯電話基地局用などとして実用化され始めている。

一方、基礎的、学術的研究では、深紫外から近赤外にわたる広範な波長未踏領域への展開を目的とした「窒化物半導体のフロンティア」の提案書が文部科学省・特定領域研究として採択され（五年、一三億）、二〇人の研究代表者を統括する領域代表として研究活動を推進してきた。この中で私のテーマは特に「E_nZ」と関連混晶の結晶成長と物性に関するもので、世界をリードする成果を次々に発表することができるようになった。着任以来発表した査読論文は一六七件、国際学会からの招待講演は七〇件、国際会議での発表論文数二四五件、国内学会発表三四〇件、特許出願一九件を行った。また世界一カ

国、十六の研究機関と共同研究を行い、延べ一〇〇人を超える学生を海外派遣した。特に「E_nZ」の結晶成長と物性に関するAPLの論文は七七〇回を超える引用回数を記録し、七〇回を超える論文は五偏を数えるにいたった。これらの貢献により、応用物理学会、日本結晶成長学会からそれぞれ論文賞、

応用物理学会からはフェロー表彰、また第一回化合物半導体エレクトロニクス業績賞（赤崎勇賞）の受賞に浴することができた。一七年前に着任した時には、夢にも見なかったことで、一緒に研究した大学院生、スタッフの皆さんの昼夜を問わない努力の結晶であり、心より協力に感謝する次第である。この間、一六五人の卒業生、一二三人の修士、九人の博士を排出し、国内外の学会から一六件の奨励賞、最優秀賞を受賞した。これらの学生諸君は、今国内外の大学、研究機関、企業などで大活躍をしてくれている。

国家プロジェクトのリーダーになってからこの一〇年間は、一月一日の正月を除き、朝九時から深夜十時まで勤務という、全く日常のない生活を続けてきた。毎週のように土曜ゼミが終わるとすぐに閑空に直行し、日曜日夕刻海外から帰国後、月曜日は朝九時から講義、引き続き研究室のゼミを行うというような生活を身近にみて、学生諸君も文句も言わずハードな勉強と実験によく堪えてくれたものである。定年後は少しのんびりしたいと思っている。

ただ大好きな講義ができなくなることで、これまで立命館大学に築き上げてきた窒化物半導体研究の知識、ノウハウ、一〇億円を超えると思われる実験装置、国内外の研究・教育ネットワークが私の定年とともに、津波の後のように消え去ってしまうことが心残りではない。ここ二〜三年の間に二〇名近くの博士課程学生が海外から私の研究室に留学を希望してき

**立命館における地球環境問題
改善へ向けた取り組みと現状**

学校法人立命館 財務部管財課 課長補佐
森岡 泰雄
(平成六年院修了)

地球環境問題がクローズアップされ、中でも温室効果ガス排出量の削減については多くの注目を集めています。我等が母校立命館でもこれまで個々に取り組まれていた温室効果ガス排出量削減、水使用量削減、廃棄物削減、紙使用量削減など幅広く地球環境問題改善について学園全体として取り組みを進めるべく二〇一〇年二月に常任理事会の下に立命館地球環境委員会を設置し本格的な取組みをスタートさせました。ハード面の対策だけでなくソフト面、特に教育、研究を通して本学自身の地球環境負荷低減の実現だけではなく、広

だが、大学の規則によりすべて断りするより他なかった。大学の国際化が叫ばれている中、残念なことといわざるを得ない。なんとか窒化物半導体の研究が続けられるよう、皆さんのご理解をいただきたいと思っている。一七年間本当にお世話になりました。

く社会全体、世界全体の環境負荷低減に貢献することを目指していますが、まだスタートしたばかりで実際の結果を出すには至っていません。

京都議定書で基準年とされる一九九〇年当時の学園の状況は、大抵は深草に立命館中高のみで、附属校は衣笠キャンパス一拠点、附属野や原谷など課外施設を加えた当時の温室効果ガス排出量は約五、七五〇tCO₂でした。一九九四年に理工学部拡充移転により、びわこ・くさつキャンパス(BKC)が開設され、同年より教室冷房実施（一九九四年は昨年の猛暑に次

ぐ暑い年であり、あまりの暑さに前期試験中に学生が倒れる騒ぎがあり、これがきっかけとなり全ての教室で冷房運転が実施されることになりました。情報機器の充実、附属校の複数化、立命館アジア太平洋大学（APU）の開設、新学部設置、小学校の開校など学園の充実発展と共にエネルギー使用量も年々増大し、二〇〇九年度の温室効果ガス排出量は学園全体で約三二、二七〇t-CO₂と一九九〇年当事の五倍を超えています。このうち約八〇%を省エネ法でエネルギー管理指定工場等に指定されているBKC、衣笠キャンパス、APUの主要三キャンパスで占め、中でもBKCは一二、九〇〇t-CO₂と学園全体の四四%を占めています。

BKCでは一九九四年の開設時より中央監視装置を設置し、照明、空調の運転管理とエネルギー使用量の管理を行なってきており、建物単位のエネルギー使用状況の把握、『見える化』が可能であり、その分析を基に対策が可能です。

二〇〇六年度以降はこれを積極的に活用して様々な省エネルギー対策を実施しており、その一つに空調熱源に対する部分負荷運転対策（設計時の安全率過剰考慮による過剰設備となっていることに起因

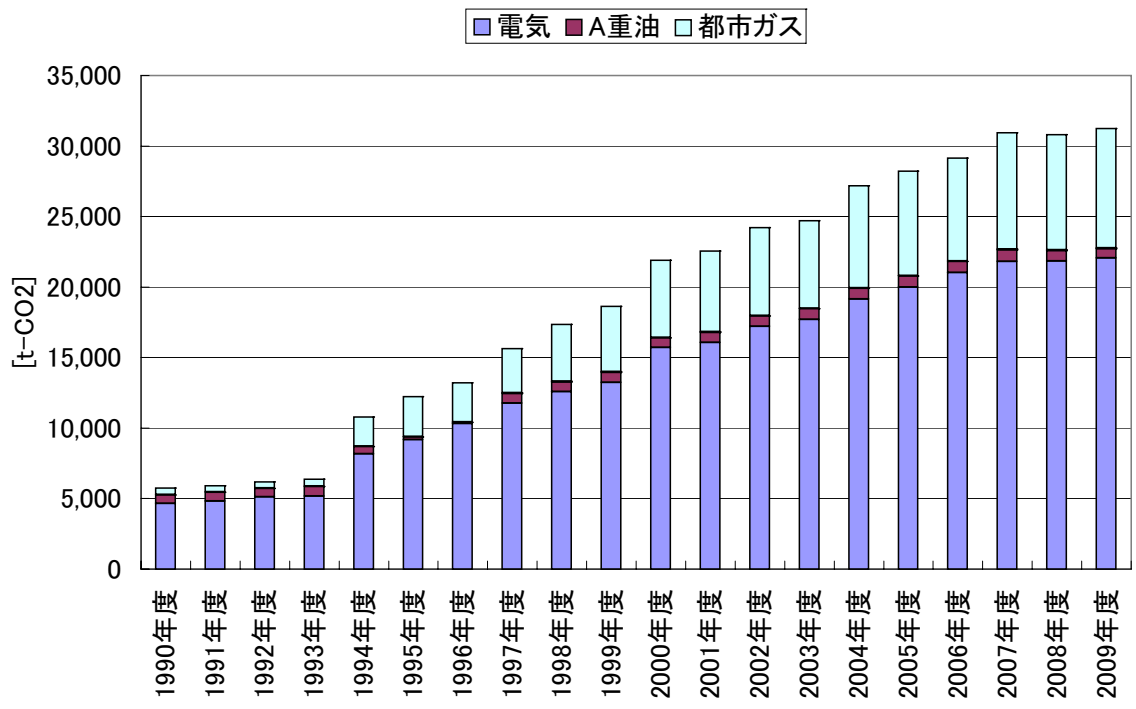
する部分負荷運転常態化していることが使用実態から分かり、必要な容量をもとに適正運転制御導入などの対策を実施。詳細は月間省エネルギー二〇〇七年十二月号五〇―五五頁に掲載。があり、年間三〇五t-CO₂の温室効果ガス排出量削減、年間約一、〇〇〇万円のエネルギーコスト削減を実現し他キャンパスを含め同様の設備に順次実施しています。

エネルギー使用量削減に関しては他にも照明の効率化、照明の照度センサー制御や人感センサー制御、共同溝など地下ピットを利用して外気の温度条件を緩和して建物に取り入れ空調負荷を軽減するヒートチューブ、空調室外機への水噴霧装置取付け、窓ガラスへの遮光断熱フィルム貼付け、金属屋根への遮熱塗装など積極的に取り組んでいます。

現在、BKCには理工学部、情報理工学部、生命科学部、薬学部、経済学部、経営学部、スポーツ健康科学部の七学部があり、建物延床面積は二二五、〇〇〇平米を超え、一八、〇〇〇人近い学生、院生が在籍しています。学生、院生数だけを見ると衣笠キャンパスとほとんど変わりませんが、水使用量は約一・七倍の年間二一九、〇〇〇立米となっています。学校で

の水使用量のほとんどはトイレでの洗浄水であり、ほぼ学生数に比例しますが、理工系では実験や研究で使用するものが大きな割合を占めます。BKCが衣笠キャンパスに比べてかなり多い理由はここにあります。実験等で使用する水には機器の冷却用に使用するものがあり、その多くが垂れ流しで捨てられていることが多く見受けられます。これを回収して循環再利用ができる場合も多く、一部では既に導入されています。

省エネルギー本来の意味はエネルギー使用の合理化、無駄の排除であり、必要なものの我慢や制限ではありません。温室効果ガス排出量削減や地球環境改善になると若干我慢の要素は入ってくるかもしれない。しかし、今はまず無駄の排除を積極的にこなうことで省エネルギーと温室効果ガス排出量削減や地球環境改善に繋がります。多くの教職員、学生、院生の意識改革がなくてはその取り組みは実質化せず、そのためには現状をありのまま正確に知らせることが不可欠であり、他大学では既に始められている環境報告書やホームページでの公開を二〇一一年度に予定しています。機会があればご覧頂けたらと思います。



温室効果ガス排出量推移 (1990~2009)

座右の銘

藤尾 浩司

(昭和四十二年卒)

姫路の田舎から出てきて、やっとの思いで立命館大学の学生になり、電気工学を専攻しました。そして京都・衣笠での私の学生生活がスタートしました。当時を思い出そうとテープを巻き戻して、さすが断片的にしか出てきません。毎日、靛電前から六番、四番の市電を乗り継いで衣笠学舎に通いました。しかし勉強、学問に精魂傾けた記憶が出てきません。いったい四年間何をして過ごしたのか?? アルバイト、ESS、ISA(国際学生会議京都支部)のクラブ活動、鉄道弘済会京都学生寮での寮生活は記憶が蘇ります。衣笠の木造学舎で下駄を履いて廊下を歩き事務職員さんに注意されたこと、必修科目の電気工学基礎及びドイツ語は一回生から毎年試験を受けます。そのうち、四回生になり卒業研究では葺屋公明先生のグループに入れてもらい、「ランダム信号の測定に対する計数率計の再検討」と言うテーマを戴きました。

私にとっては単位をもらえそうもない難解な課題に感じました。そこで知恵を借りてコピーと部屋の清掃という雑用係を引き受け、優秀な友の陰に隠れて要領よく論文をまとめて提出して単位を貰えました。又、二回生からの実習科目の授業では自腹をきって購入したペンチで電線を切ったり伸ばしたりしていました。四十六年後の今でもそのペンチは現役で日曜大工時に活躍してくれています。こんな調子ですから当時、電気科のアホの三羽ガラスの一人に数えられて居ました。今ではあとの二人O君とK君も立派に初老を迎えて居ます。だけど、私は立命館の学生として四年間生活できたことに幸せを覚え、誇りに思っています。それは末川博先生に出会え、二、三回直接話が出来たことです。何故か解りませんが先生の話されること全てが新鮮に心に響き、胸の熱くなったのが今でも脳裏から離れません。当時、友達に会えば自慢げに話したものです。お顔を拝見するだけでも、学生の私は心安

らぎ、大きな慈愛で包み込んでくださって居るようで心ときめくほど嬉しかったのを今でも忘れません。私が主催した国際学生会議(ISA)京都セッションを以て学館で催した時、先生に挨拶をお願いしたら、夏休みにもかかわらず快諾して頂きました。当日、秘書を伴って、大きな車で来られるのかと思ったら、小型のタクシーで一人来られました。飾らず、威張らず、堂々としておられる先生を前にした時、込み上げてくるのを覚えました。そして、百数十名の各国の学生の前で私が挨拶で使ったグッド・ネイバリー・リレイションズと言う言葉を直ぐさま取り入れながら英語を交えて講演してくださいったのを今でも鮮明に覚えています。講演を聴いた学生は少なからず先生の虜になったことと思います。また卒業時にいただいた色紙の「理想は高く、姿勢を低く大地に足を踏んまえて、ゆっくりとがちりと前え前えと進む」は私の座右の銘であり、今も生活の場で脈々と生き続けて居ます。この言葉に真の人間としての存在を感じ、うわっつらだけの軽い男になるなよと言っておられると理解しています。目立たなくても良い、芯のしっかりした、腹の据わった人間たれと。常に目的を

失わず、信じてそれに向かって下丹田に力を込めて前進せよと言っておられる。そんな思いがこれまでの私の支えになりました。幸いにして、良き時代背景と良き友に恵まれ、今は数十名の社員を有する建設専門工事を経営していますが、多くの社員から結婚の仲人、主賓を頼まれたものです。そのとき末川先生の色紙を私なりに解説を加えて進呈しています。無くなれば今でも衣笠の末川記念館に買い求めに行っております。会社経営も含め、これまで幾つかの困難に遭遇しました。その時々先生のこの言葉(教え)があったからこそ、幾多の難局を乗り越えられた事は疑う余地がありません。立命館ありがとうございます!! 末川先生ありがとうございます!!

私は生涯、先生を師と仰いで生きていこう。

先ず、ご自身が最近の業務用ビデオカメラを使って撮影された京都・嵯峨野の紅葉風景、円山公園での桜の映像を観させて頂きました。肌色や中間色が大変美しく再現されており感心致しました。ビデオカメラは民生、業務、放送、監視、医療、等の用途の他に最近では映画にも採用されつつ有る由です。フィルムは「現像」が必要ですが、ビデオは撮影後「即」見られる事が出来るのが特徴です。又、編集ソフトが普及し簡単に編集が出来る様になった事も、急速なビデオの普及に寄与しています。

従来、撮像コマ速度はビデオは三〇コマ/秒で、デジカメは高級機でも一〇コマ/秒でした。然し、最近ではビデオと同じ三〇コマ/秒で2GBメモリで二〇分間撮影可能なデジカメが登場し

関東立電会開催記事

第十一回関東立電会(関東在住・電気科OB会)を十月二十三日(土)一〇:三〇立命館東京キャンパスの皆様のご協力の下に、同所にて開催致しました。出席者は十八名でした。松田浩章会長(57

年卒)の挨拶の後、電気電子工学科の高山茂教授(84年卒)から「総長選挙近々実施予定、キャンパス拡充計画、学生の就職状況、立命電友会(電気卒OB会)活動状況」等の学園の近況報告をお聞かせ頂きました。

てき来ており、ビデオとデジカメの融合化が急速に進んで来ています。

ビデオカメラの特徴は、①音声録音が可能。②焦点深度が深く遠近画像がボケずに比較的鮮明に見えます。一方、デジカメは、①高速撮影の時は音声録音は不可ですが、焦点深度が浅い為、対象物に対しては鮮明に、他はボヤけて見えます。この為、②撮影対象物が際立って鮮明に見えるのが特徴です。ビデオの録画媒体は以前はテープが主流でしたが、最近では半導体メモリが主流になりつつあります。小型軽量で長時間(四時間)撮影も可能になって来ました。又、回転部が無い為、故障発生率も減少して来ています。今後のビデオカメラの動向は下記の如く三点有るそうです。①撮像部を二ヶ所備えた「3D」立体画像化、②画素数アップによる超高精度画像化(画素数・現在TV・三〇万、HDTV・二〇〇万、四KTV・八八〇万数)③インターネットとの融合化(Windowsムービーメーカー、等)編集ソフトの活用可能化、等)同じ校友のお話であり、熱心な質疑応答も有って有意義な講演会でした。その後、同じサピアタワー内に在るイタリアン・レストランで懇親会を実施致しました。最初

に遠路、関西からご出席頂きました前・立命電友会会長 荒木敏氏(59年卒)のご挨拶、今回出席者の最長老の川添雄司氏(56年卒)の乾杯の音頭で懇親会は始まり、その後、出席者十八名が近況報告を語り合いお互いに懇親を深めました。

そして、全員による校歌斉唱でもってお開きとなりました。同じ校友で電気卒の気楽さが有り、お互い楽しい一時を過ごす事が出来た。感激でした。

米澤正勝(61年卒)記



同窓会だより

燦燦会(昭和三十三年卒)

燦燦会はここ十年ほど毎年開催しています。二〇一〇年は十月六日(水)に前年と同様、京都タワーホテルで開催いたしました。参加者数は二十一名、このうち一名は四十数年ぶりの参加でした。昨年も卒業以来はじめての参加者がいて再会を喜びました。私たちの年代になりますと学生時代の思い出が強くよみがえり、再会したい思いが募ります。

私たちは二〇一〇年度で全員が後期高齢者になりました。参加者の数名はまだ現役で活躍されていますが、多くの方は趣味あるいは地域でのボランティアなど、余暇を活用し、楽しんでいきます。参加者がお互いに現況を紹介しあい、元気を分かちあいました。体調がすぐれないとのことで欠席されている方もぜひ参加されて、元気を取り戻してほしいと願っています。会合では日頃の健康法などの話もでしたが、気持ちを若く持つことも大切です。好奇心を持ち何かにチャレンジするとか、同好の仲間をつくるとか……。

立命館大学の旗をバックに記念写真を撮り、校歌・応援歌をして

寮歌を斉唱して散会いたしました。二〇一一年も十月の第一水曜日の十月五日に開催いたします。(井上 記)



立命電友会 第6回総会・創立20周年記念祝賀会 開催予告

2012(平成24)年7月7日(土) 13:00より(予定)
京都全日空ホテル

ご案内は、今秋に会報、ホームページ、メールにてお届けいたします。
また、卒年ごとの同窓会を開催されます際には、事務局までご一報ください。別途、案内等のお知らせをお届けいたします。

二〇二〇(平成二十二)年度
電子システム系卒業生修了生進学・就職状況

二〇〇八年九月のリーマンショック以降の経済状況を受けて二〇〇九年度にかけて急速に冷え込んだ就職状況は、二〇一〇年度においてさらに落ち込むことはなかったものの大きく回復することはありませんでした。企業においては必ずしも採用予定数を埋めるわけではなく、よい学生がいれば採用するという厳選採用の傾向が継続しており、採用活動はますます早期化、長期化し、学生の負担と不安はきわめて大きくなっています。そのような状況の中で、電子システム系の学生は就職活動に向かう意欲も高く、理工系学部の中でもかなり健闘しました。報告者へいすで卒業・終了予定者の九割におよぶ学生が就職を決定しています。例年のことですが、大手電機メーカーを中心に幅広い業界に進出しており、近年、自動車関連製造業および機械系製造業の本学電子システム系学生に対する採用意欲も高くなっています。

院生と学部学生を比較すると、どちらも就職決定率は好景気の時と比べてさほど落ち込んではいないものの、就職決定先の業種および仕事内容が学部学生においては広くなる傾向があります。厳選採用の状況下で、大学学部および大学院時代に学んだ専門性と知識を問われる傾向が高くなっており、

が評価していることが窺われます。三月十一日に発生した東日本大震災は未曾有の災害であり、本学学生の就職先企業様および電友会会員の皆様にも多大な影響があるものと存じ、被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。本震災は二〇一一年度就職活動のピークで起きており、多くのメーカーが採用選考を六月に延期する一方、対して例年通りのスケジュールにて採用選考を進める企業も多数あり、学生が動揺することともに活動がさらに長期化することが予想されます。立命電友会会員の皆様には、より一層のご支援をお願い申し上げます。

(就職委員 森本朗裕)

I. 卒業生・進学者・就職者一覧

2011年3月1日現在

	卒業生	進学者	就職者	活動中	その他
大学院(電気電子工学科)	36	0	35	0	1
大学院(電子光情報工学科)	44	0	40	0	4
大学院(電子情報デザイン学科)	37	2	32	0	3
電気電子工学科	122	63	38	21	0
電子光情報工学科	105	30	52	4	19
電子情報デザイン学科	114	56	31	0	27
合計	458	151	228	25	54

II. 就職先一覧

(大学院・修了生の就職先も含む) (順不同敬称略)

業 種	企 業 名
電 気 ・ 電 子 機 械	シャープ、ソニー、東芝、パナソニック、パナソニック電工、日亜化学工業、三菱重工業、三菱電機、日立製作所、富士重工業、富士通、NTN、沖電気工業、京セラミタ、きんでん、GSユアサ、住友電設、セイコーエプソン、大日本スクリーン製造、中電工、デンソー、ニチコン、ブラザー工業、日本電産、三菱電機エンジニアリング、浜松ホトニクス、富士通テン、ルネサスエレクトロニクス、ローム、アークレイ、アイシン精機、アクソonderデータマシン、朝日レントゲン工業、アスモ、インフォプリント・ソリューションズ・ジャパン、エクセディ、エヌ・ティ・ティ・ネオオメイト、大橋製作所、オプテックス、オリンパス、カコムス、関電プラント、湖北工業、サインエレクトロニクス、三社電機製作所、三和電子サーキット、シーケーディ、JFEエンジニアリング、JFE電制、ジェイテクト、シスメックス、信越化学工業、新生テクノス、ダイキン空調神戸、大鵬薬品工業、TDK、寺岡精工、テルモ、トーエネック、東海精機、東芝エレベータ、東レエンジニアリング、豊田合成、パナソニックセミコンダクターシステムテクノ、ヒューマンフォレスト、藤井電工、フォスター電機、堀場アドバンスドテクノ、日本ケーブル、日本圧着端子製造、日本原子力発電、日陽エンジニアリング、マクニカ、三菱重工メカトロシステムズ、三菱電機プラントエンジニアリング、三鈴エリー、水戸工業、日立建機ティエラ、日立国際電気、日立産機システム、富士電機ホールディングス、西川産業、矢崎総業、ヤンマー (84社/117名)
電 力 ・ ガ ス	関西電力、九州電力、四国電力、中部電力、東京電力、北海道電力、広島ガス (7社/16名)
自 動 車	トヨタ自動車、マツダ、日産自動車、本田技研工業、いすゞ自動車、スズキ、トヨタ車体、ダイハツ工業 (8社/16名)
運 輸 ・ 通 信	エヌ・ティ・ティ・ドコモ、遠州鉄道、山陽電気鉄道、西日本旅客鉄道、全日本空輸、東海旅客鉄道、東日本電信電話、東日本旅客鉄道 (8社/14名)
印 刷	凸版印刷、大日本印刷 (2社/2名)
鉄 鋼	NOK、ノーリツ、ハーマンプロ、日本ネットワークサポート (4社/4名)
情 報 ・ シ ス テ ム	TIS、エヌ・ティ・ティ・データ、ソニー・コンピュータエンタテインメント、ソフトバンクグループ、バッファロー、伊藤忠テクノソリューションズ、住商情報システム、日立電子サービス、STNet、アール・ケー・ケー・コンピューター・サービス、カゴヤ・ジャパン、コニカミノルタビジネスエキスパート、日立ギマトロン、関電システムソリューションズ、中央コンピューター、東京エレクトロンFE、日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア、富士ゼロックスシステムサービス、明治安田システム・テクノロジー (19社/19名)
そ の 他	際石油開発帝石、三井物産、三菱東京UFJ銀行、住商情報システム、日本放送協会、住友ゴム工業、NSD、NTTファシリティーズ関西、Paltac、SMBCフレンド証券、アスパーク、ウィルウェイ、さなる、ジェイ・エス・エル、シスプロ、セイコーインスツル、マイスターエンジニアリング、モリタホールディングス、ロココ、わらべや関西、外国企業(マレーシア)、丸三証券、岐阜県人事委員会、京都市人事委員会、京都信用金庫、京都府警察本部、幸楽苑、高園テクノロジー、国三和澱粉工業、山田ビジネスコンサルティング、浜松市人事委員会、福岡銀行、平和商事、自営 (34社/40名)

第四回 南会長【活動報告】

三十、平成二十二年(二〇二〇年)八月一日(日) 十五時

立命館大学理工系同窓会連絡協議会二〇二〇年度第一回役員会が午後三時から京都タワーホテル七階「黄鶴の間」で開催されまして協議会の副会長として出席しました。経過報告、役員改選、収支報告、会費収納、生命科学部、薬学部と同窓組織について等の討議があり、立命電友会からは新たに津田川勝氏が事務局長に選出されました。その後懇親会が催され数物会会長中山氏、応化会会長北尾氏、情報会会長八村氏他の方々とは懇談し六時半頃散会しました。

三十一、平成二十二年(二〇二〇年)九月二十五日(土) 十三時

二〇二〇年度立命電友会臨時役員会が午後一時から京都タワーホテル七階「黄鶴の間」で開催されました。会長挨拶の後、オリ立命館校友大会IN福岡への対応について、九州・沖縄支部総会の案内、関東立電会の案内、立命電友会活動の新展開についての会長名での文章発表。平成二十四年(二〇二二年)第六回総会(立命電友会創立二十周年記念祝賀会)への対応について等が討議せられまして、準備委員会の設置が決まりまして午後五時頃散会しました。

三十二、平成二十二年(二〇二〇年)十一月二十三(火) 十時

(立命電友会第六回総会・創立二十周年記念祝賀会)の為に立命電友会が午前十時から草津エストピアホテルで開催されました。十三名出席、会長挨拶の後、開催日時、場所などを討議意見交換しました。

三十三、平成二十二年(二〇二〇年)十二月十一日(日) 十五時

立命館大学情報会設立二十周年記念第十一回総会が午後三時からホテルグランヴィア京都「竹取の間」で特別講演会が「古今の間」で総会、懇親会が開催されまして立命電友会会長として招待され出席しました。懇親会では数物会会長中山氏、情報会会長八村氏、機友会副会長酒井氏、建設会会長川那部氏、校友会副会長浅賀氏、立命館大学副学長飯田氏、情報理工学部長大久保氏、他の方々とは懇談し八時頃散会しました。

三十四、平成二十三年(二〇二一年)一月十五(土) 十三時

(立命電友会第六回総会・創立二十周年記念祝賀会)の為に立命電友会が午後一時からBKC内エポック21三階三〇四号室で開催されました。十三名出席、会長挨拶の後、開催日時(平成二十四年七月七日上午後一時より)開催場所(京都全日空ホテル)、会費一万円等を決定しました。

三十五、平成二十三年(二〇二一年)二月五(土) 十三時

立命電友会広報・事業合同委員会が午後一時からBKC内エポック21三階三〇四号室で開催されました。十一名出席、風邪で体調不良により欠席いたしました。

三十六、平成二十三年(二〇二一年)三月五(土) 十三時

(立命電友会第六回総会・創立二十周年記念祝賀会)の為に立命電友会が午後一時からBKC内エポック21三階三〇六号室で開催されました。十五名出席、会長挨拶の後、総会、祝賀会の構成、企画内容、招待者、参加者確保、記念品の件等を意見交換、討議しました。次回準備委員会を五月七日(土)に開催予定と決定し五時頃散会しました。

学系便り

平成二十三年度 電子システム系の主な役職者

電気電子工学科	北澤 敏秀
学科長	馬杉 正男
就職委員	田口 耕造
電子情報工学科	森本 朗裕
学科長	藤野 毅
就職委員	山崎 勝弘
電子情報デザイン学科	
学科長	
就職委員	

【退職】		
浮田 宏生	平成二十三年三月三十一日、定年退職	
名西 徳之	平成二十三年三月三十一日、定年退職	
山田 廣成	平成二十三年三月三十一日、定年退職	
【新任】		
宇野 重康	平成二十三年四月一日、電子光情報工学科准教授に就任	
峯本 高志	平成二十三年四月一日、電子光情報工学科准教授に就任	
訃報		
卒年	氏名	5年前
昭3年	山田 直一	平成21年11月13日
昭4年	清水壽栄次	平成20年6月
昭12年	玉井 幸三	平成12年
昭14年	宮田 整二	平成12年
昭16年	北山 弘	平成12年12月25日
昭18年	仙田山逸郎	平成15年8月
昭19年	塩崎幸四郎	平成20年2月7日
昭19年	神塚 明夫	平成22年5月25日
昭22年	寺田 幸夫	平成22年9月9日
昭23年	西口 訓順	平成22年5月21日
昭24年	倉田 祥雄	平成22年5月6日
昭24年	下村 真二	平成22年2月10日
昭26年	外園 真二	平成11年6月23日
昭28年	渡辺 九一	平成22年6月9日
昭30年	有馬 豊	平成20年10月
昭31年	菅井 文男	平成19年9月16日
昭31年	前川 吉之	平成16年
昭32年	増 孝雄	平成22年8月5日
昭32年	大橋 新一	平成22年1月30日
昭33年	松本 繁治	平成22年6月24日
昭33年	増田 匡章	平成22年12月5日
昭34年	岩永 英良	平成18年10月13日
昭34年	河辺 真人	平成19年4月10日
昭35年	大橋謙太郎	平成19年8月14日
昭35年	堀 晃	平成19年8月14日
昭36年	井上 和也	平成22年4月8日
昭36年	米田 一皓	平成22年4月15日
昭37年	戸潤喜代治	
昭37年	福村登良彦	
昭38年	阿坂 優	平成22年3月
昭40年	樋川 洋三	平成21年10月12日
昭44年	徳田 幸一	
昭56年	石川宏一郎	平成22年5月28日

事務局便り

立命電友会会報三十六号の発行にあたり、ご寄稿頂きました皆様に対し、心よりお礼を申し上げます。この度の、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また被災されました皆様にも心よりお見舞い申し上げます。東北出身の私もとても気になり、余震のたびに親戚に電話やメールをして確認をしています。この度の会報は、WEB上のみ掲載となります。ぜひ沢山の方々にご覧になって頂きたいと思っております。メールアドレスに登録をされていらっしゃる方はぜひ事務局までご連絡ください。よろしくお願ひします。(宮林)

立命電友会連絡先
〒525-1857
滋賀県草津市野路東一―一
立命館大学理工学部電子システム系内
立命電友会事務局 高山 茂

宮林和子(月・木)
電話 〇七七(五六一)二六六二
FAX 〇七七(五六一)二六六三
E-mail: kma98019@se.ritsumei.ac.jp
http://ritsuneidenyukai.com/

(会報の題字は久保之俊氏)